

2007年1月25日

日本地質学会 会長 木村 学

## 2006年度第8回理事会 議事録

期 日：2007年1月13日（土）12:00～16:00

場 所：地質学会事務所

出席者：木村会長，伊藤副会長，佃副会長，天野副常務理事・Wallis・上砂・大友・狩野・公文・倉本・高橋・久田・宮下・向山 各理事，橋辺（事務局）

欠席理事：渡部常務理事・中山・増田

\* 成立員数(12/17)に対し，出席者14名，委任状2名，欠席者1名で，理事会は成立。

### 報 告

#### 1. 運営財政部会（部会長-上砂，中山，向山，大友）

総務委員会（委員長-上砂）

庶務関係（担当理事 上砂）

- ・【要返事】 学術会議地球惑星科学委員会(主催)より，IYPE シンポジウム「国際地球惑星年2007-2009」（国際惑星地球年開催宣言式典）（1月22日14時-16時，東京大学理学部1号館，小柴ホール）の協賛依頼がありこれを了承した。出席者：木村会長，佃副会長
  - ・【要返事】 日本原子力学会より，原子力総合シンポジウム2007開催(5月末予定)の共催依頼（主催学術会議），ならびに運営委員の推薦依頼があった。共催負担金5000円。第1回委員会は1月30日。共催を了承し，委員として高橋正樹氏を推薦
  - ・「わが国における海洋研究船のあり方に関する提言(案)→文部科学省宛」（同シンポジウム，ワークショップ世話人）に対するアンケートについては，会長が関係の方々とは意見交換を行い，慎重に検討した結果，全面的に賛成との回答をした。（内容についてはメールにて回覧済み）
  - ・学術会議「イノベーション推進委員会」への提案について，同委員会より公表することの諾否等について連絡があった。返事の期限1月15日。→（メール回覧済み）
  - ・科学技術振興機構（JST）より，J-EAST（国内文献の英文化データベース）事業の中止（平成18年度にて終了）に伴い，英文著者抄録の利用許諾の取り扱い変更について通知があった。地質学雑誌，地質学論集が該当するが，これまで年間約3万～4万円であった許諾利用料金収入はほとんど0となる見込み。  
現状：和文抄録の場合，原文のまま，英文は和訳し，和文は英訳して情報提供  
変更後：和文抄録は原文のまま，英文抄録の場合本文が日本語以外の場合に限り和訳して情報提供。
  - ・第7回子どものためのジオカーニバルの終了報告があった。参加者4000名（前年3300名）。
  - ・第3回日本学術振興会賞の決定のお知らせがあった。地学関係の受賞者はなし。
- \* UNESCO 科学委員会委員の推薦について久田理事より説明を受けた。
- IGCP 評価委員会委員の推薦依頼が来ている，3月31日締め切り
  - 国際交流委員会で検討し，理事会で承認のうえ，推薦は久田が行う

会員関係（担当理事 中山）

#### 1) 入会の承認

正会員(2名)：高須佳奈，楮原京子

院生割引会員(1名)：西川裕輔

- 準会員 (1名) : 坂 啓惟  
2) 退会者 (正6名) : 田中館宏橋, 松田あゆり, 村田竹外, 三浦三郎, 長野正寛, 遠藤満久  
3) 逝去者 (名誉1名, 正1名) : 秀 敬 (1月6日), 島田昱郎 (11月28日)

4) 12月末現在会員数

賛助 34, 名誉 75, 正 4481 (内, 291 院割), 学生 42, 合計名 4,632 (昨年比 -139)

- 2007年問題も含めて, 会員の減少については会員委員会で対策を検討中.

\*会員の逝去時などを含め, 緊急時の対応のための連絡網 (携帯電話) を作る必要があるとして, 事務局で作成することとした.

### 地球惑星科学連合 (久田連絡委員)

- ・ 学術会議地球惑星科学委員会地球惑星圏分科会では, 地球惑星科学振興のための将来構想を検討しており, 連合加盟の各学会に対して, 将来構想, 今後推進すべき課題に関する提案や声明についてのアンケート依頼があった. アンケートの締め切りは2月20日. (別紙参照)

- 研究企画委員会のまとめ, ビジョン委員会報告などを提出する.

- ・ 連合財務委員会の七山委員より, 委員会の報告があった. 特に話題となった点については次のとおりである.

連合の財政は辛うじて健全ではあるが, 連合大会の参加費・投稿料などから賄われている現状では, 将来的には不安定. 特に下記の3課題実施のためには, 連合の構成員である学協会が主体的な財政貢献をし, 財政の基盤部分を確保する仕組みの構築が必要.

- 1) 事務局の仕事量増加に伴う人件費の増加, 2) 国際化対応のwebの改良, 3) EGUと強調し国際誌の発行

### 学術会議関係報告 (木村会長=連携会員)

- 昨年末より活動が開始された.
- 下からの提案を積極的に行う必要がある. 地質学会としても積極的に提言をする.

### 会計関係 (担当理事 向山)

- ・ 一般会計状況について, 順調であることが報告された.
- ・ 拡大インターネット・情報化合同委員会開催の経費について検討し, 次の支出を了承した. 委員会の宿泊費の支出 (旅費=20000円, 宿代=約25000円, プラス会議費若干)
- ・ 会員から, シニア会費の制度について検討の要望があり, 今後の検討課題とした.
- ・ IUGS 奈良会議に対し, 支援補助金として20万円の支出をした.
- ・ 編集用のパソコンおよび周辺ソフトの更新をした. リース料金はこれまでより多少アップ.
- ・ 旧構造地質研究会の資金の移管について今年度中に移管するとの連絡があった (280万円)
  - 寄付金として受け入れ, 引当金 (構造地質部会) とし, 予算に応じて使用することとした. 数年様子を見てあまり長引かないようにしたい.
- ・ 恒常的な寄付受け入れ制度について検討を開始する.

### 広報委員会 (担当理事 大友)

### インターネット運営小委員会 (担当理事-坂口)

- ・ 拡大インターネット・情報化合同委員会を13日夕方から14日にかけて開催する.

## 2. 学術研究部会 (部会長-久田, 公文, 増田)

### 行事委員会 (久田委員長)

- ・ 講演要旨集のCD-ROM化についてメール審議の結果, 冊子体の廃止については反対が多かった. 冊子と共にCDもあればよいとの意見もあった.
- ・ 2007年の総会の日程: 5月20日 (日) 17:00~19:00で会場の申し込みを行った.

### 3. 編集出版部会 (部会長-狩野, 久田, 宮下, Wallis)

地質学雑誌編集委員会 (委員長-狩野 副委員長-久田, 宮下=企画担当)

・今月の編集状況は以下の通りです (12月11現在).

113-1: 論1・短報3・ノート1・討論2・口絵1. (40p) 校正中

113-2: 入稿準備中

・2006年度投稿論文総数102編 [論説70 (和文63・欧文7), 総説4 (和文4), ノート3 (和文2・欧文1), 短報21 (和文21), 討論4 (和文4),] 口絵9 (和文5・欧文4)

投稿数昨年比 +17 査読中46編

特集号: 紀伊半島が進行中

・電子投稿システムの本運用を開始し, 学会HPにて画面を公開した. 現在, 1編が査読中.

Island arc 編集委員会 (担当理事 Wallis, 事務局長 竹内圭史・角替敏昭)

#### A. 編集状況

年間540(~576)p

16巻1号Pictorial1編, 宮崎特集論文6編, 一般10編, 訂正1p, 計193p見込み.

18年度では計画540pの20-25p減程度を見込む.

2号[06-01] Kuzumichev et al. 13p

[06-0022] Fukunari & Wallis: IAR 570 19p

[05-19] Yun et al.

3号(5月受理の藤岡特集が入る予定)

#### B. オンライン投稿

9ヶ月で投稿32編(論文31口絵1)あり好調. 藤岡特集及び板谷特集の投稿が始まった.

受理3編(論文2口絵1). 18編が査読/再査読結果著者戻し(うちリジェクト3編, うち2編は既掲載論文の再投稿), 11編が査読/再査読中.

システムへの登録: 著者109名+査読者64名+編集関係者63名. AE・EAB 53名のうち  
オンライン編集経験済み30名

#### C. Island Arc 賞選考作業

投票締め切りはすぎたが, まだ十分な返答は届いていない.

投票期間を1月末まで延長し, EABメンバーに催促のメールをだした.

#### D. その他

・オフイオライト特集は, ダウンロードが多く利用されている.

・インパクトファクターは昨年を越えそうである.

Island arc 連絡調整委員会 (委員長 会田, 担当理事 Wallis)

・科研費状況報告書を提出した. 発行状況は順調.

現在までの発行ページ数 15巻4号まで342p. うち原著319p.

年度末発行予定ページ数 16巻1号まで534p. うち原著508p.

企画出版委員会 (担当理事 高橋)

● 国立公園地質リーフレットの出版(子ども向け箱根火山(学校教育版リーフレットNO.1・一般向け箱根火山)については, 年度内に原稿完成させる予定である.

頒布等についても地域とタイアップして行けるよう, 神奈川県博・温地研・上杉会員等に作成の協力を得た. 第二弾としては「上高地」を検討している.

### 4. 普及教育事業部会 (部会長-高橋, 倉本)

地層名委員会 (委員長-天野)

● 天野がIUGS奈良会議(1月16日~)に出席予定

### 5. その他

ジオパーク推進委員会 (担当理事, 佞委員長)

・1月15日に委員会を開催予定.

## 【以下、評議員会の下の委員会】

### 法務委員会（担当理事：委員長 上砂）

- ・地質学会プライバシーポリシー策定について法務委員会を1月23日に地質学会事務局で開催する。

### 選挙管理委員会（委員長 関 陽児）

- ・評議員選出のための投票が12月15日で終了し、12月18日に選挙管理委員会を開催し、開票した。（投票結果は別紙参照）
- ・理事選挙の立候補受付締め切りを1月12日として、新選出代議員に広報した。  
15日以後、理事立候補者の確認と投票準備、理事選挙投票終了後は評議員選出のための選挙管理委員会を開催し、1月30日までにすべての役員選出を終了する予定。

## ○審議事項

### 1. 日韓交流および国際交流委員会について（公文国際交流特任理事担当）

- 日韓交流については、ニュース誌に公表し、2月15日締め切りで委員募集をおこない、WG（3月理事会で承認）を発足させる。
  - ・ISLAND ARCと韓国地質学会国際誌との情報交換についても検討する。
  - ・次回AOGS(2008)の開催国は韓国。連携を組む必要あり。
  - ・ソウル大学留学生（日本人）の協力申し入れあり。日本の若手との連携担当者となる可能性あり。
- タイ地質学会との関連（AOGS）
  - ・AOGSでのプレゼンス。
  - ・公文が原案を次の理事会までに作成する。
- 国際交流の戦略を委員会で検討するため、国際交流委員会の強化をはかる。
- 学会会員が関与しているアジアの仕事についての情報を集約して紹介する必要もある。

### 2. 札幌大会および秋田大会について

- 札幌大会
  - (1) 組織体制
    - ・理事会内に推進委員会  
メンバー：  
4役＋行事委員長＋会計担当理事＋地学教育担当＋地質情報展担当者＋本部事務局
    - ・会合はMLで行う。
  - (2) 実務的準備
    - [予稿集] 札幌大会では冊子体とし、CDは作製しない。なお、CDの作製については今後の実現にむけて情報強化委員会での検討を継続する。
    - [札幌マラソン対策] 日程（9/9）がバッティングしているので、宿泊については早めの予約が必要であることを会員に宣伝する。非常用として大学の宿泊施設を確保する。
    - [情報サービス] 行事委員会からとして、活用できるメーリングリストを使って準備関連情報を会員に流す。
    - [巡検案内書] 札幌大会からは冊子体を作らず、CD版のみを作成し、12月号の付録として全会員に配布する。案内には班ごとにプリントアウトして利用する。
  - (3) 就職支援
    - ・原案作成のWGを作る（向山：責任者、上砂、荒戸）
    - ・原案は2月理事会で承認。
  - (4) 学校教育関係
    - ・次年度の新理事が決まったらできるだけ早く担当候補者との引継ぎを行い、地学教育委員会、実行委員会と連携して具体的な検討に入る。
  - (5) alumni

- ・具体的に幾つかの大学に呼びかけを行い，他大学にも参加を呼びかける（ニュース誌とメーリングリスト）  
東北大，広島大，新潟大，千葉大，東大，京都大，九州大，旧東京教育大，筑波大，北大，名古屋，秋田大など.
- (6) 地質情報展
  - ・連絡窓口：斎藤眞
- (7) 公開市民シンポジウム「地質で町おこし-ジオパークの試み」
  - ・連絡窓口：渡辺真人
- 秋田大会
  - ・岩鉱関係と早急に連絡を取り，日程等の確認と調整をする必要あり．その上で，準備委員会にミッションの派遣をし，3月までにはコンタクトを取る必要がある.

以上